

子のやる気 親の気づき

〇〇46



年が明け、今年も県立高校入試までいよいよラスト50日余り。受験の追い込み本番です。しかし、ゆとり教育世代になり塾生も様変わりしてきました。平然と「危機感が湧きません」と相談に来たり、まだやってもいないのに「やれば大丈夫」と言い切ったり。取りあえず課題先送りの日々の中、合格・不合格はまるでひとごとのようにです。

見聞

志学塾では、冬期講習中に目標の再確認として、①これまでの取り組みの改善点②そのために今日から何をすべきか一を全員に書かせます。今年の改善点には「やるど決めたのに途中でやめていた」「できるだけさぼろうとしていた」文章は

小さな失敗体験が大切

真の楽しさを経験させて



by Yoriko

は「なぜ約束を守らない?」とごまかしが通らないことを示しました。その子は真面目に「はい!」と答え、表情には緊張が走りまわりました。しかし次に「でも頑張りました!」と。私は「その頑張りは何もしていない時間を作らない?」と。他人を減らす「趣味の時間を一切なくす」なども並びました。

翌日、毎日60ページをやることを誓った男子に「昨日はやった?」と聞いてみました。すると「あく、54ページでした」と照れ笑い。褒められると思っていた後で感想を書いてもらいました。「塾で働いていました。やれなかったら、次は心

てみて小さい失敗を積み重ねた方がよいと思えます。それは自分で考えるようになるからです。指示を待つのではなく、自分で電話をとる、とりあえず自分が対応する、そして注意される、注意されたこと、次に心

教育

視界を広く前方注意

ら外へ出ることに始まります。このとき、お母さんたちがやってはいけないこと。それは「ちょい目外し」(犯罪

者

には周りに注意が届きません。小学6年ぐらいまではそうです。こつ言ってあげてください。「キョロキョロ」(犯罪者)に訓練して

子どもの安全科学



世界の現実伝えたい

